「ふくし」ってなんだろう?」をみんなで考えよう!
(小学校での福祉教育の取り組み)

各学校での福祉教育の様子はコチラ



社協では地域のボランティアやゲストティーチャーに協力いただき、市内の小学校などで「ふくし(ふだんのくらしのしあわせ)」について一緒に考える福祉教育に取り組んでいます。

様々な世代や立場にある方との出会いや交流、体験を通してお互いを認め合う「ともにいきる」チカラを育み、自分に何ができるのかを一緒に考えていくことで「ふだんのくらしのしあわせ」の実現をめざしています。

学校の授業時間を活用した福祉教育
市内の7小学校で実施しているプログラムの一例をご紹介します

①はじまり(導入)

社協職員が学校へ出向き、子どもたちと「ふだんのくらしのしあわせ」や、「障がい」、「支え合いの中で生きていること」などについて一緒に考え、みんなで話し合います。



②体験学習

ボランティア団体や福祉教育サポーターに協力いただき、様々な世代や立場の人の生活について学びます。
体験内容…車いす・手話・アイマスク・点字など。


点字学習


アイマスク体験

③交流活動

ゲストティーチャーとの交流を行います。お話を聴いたり、質問したり質問されたりする中で、お互いの共通点や違いに気づき、地域でともに生きる一員として、自分に何ができるかをみんなで一緒に考えます。


今泉さんのお話と点字紹介


和田さんのお話と車いすの実演



④学びの共有・発信

学んだことを自分の中にとどめておくのではなく、感じたことや考えたことを学校や家庭、地域などで周りの人と共有します。互いを知り、認め合い、みんなにとってやさしい地域とは何かを考えることを通して“ふくしのこころ”を育みます。

太宰府東小学校
学習の振り返りとして「ふくし新聞」を作成



水城小学校
「人権まつり」でのステージ発表

福祉教育は赤い羽根共同募金の配分金により実施されています。